

科 目	週 時 数
現代の国語	2 時間

目 標	実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する。	
育 っ て たい 力	知識 技能	本文中の言葉や表現を通じて、語彙力を高める。 種々の言語活動を通して、実践的な語彙の運用能力を高める。
	思考 判断 表現	論理的な文章を読むことで、書き手の考えやその展開の仕方を学ぶ。 各単元で学んだ内容をもとに自身の考えを深め、発表する機会を持つ。
	主体性 協働性 多様性	授業で学んだ内容について、興味・関心を持った事柄について仲間とともに調べたり、自ら関連する書物を探して読書の範囲を広げる契機とする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・【伝える・伝え合う】「白紙」 ・【文章の要点をつかむ】「水の東西」 ・【意見を書く】 ・【論理をとらえる】「動的平衡としての生物多様性」 ・【資料と文章の関係を読む】『「安くておいしい国」の限界】 ・その他、適宜問題演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・【文章を比較して読む】「空気を読む」「個人から文人へ」「『美しさの発見』について」 ・【根拠を吟味して読む】「贅沢を取り戻す」 ・その他、適宜問題演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業・グループワーク
教科書	『現代の国語』(大修館書店)
副教材	『生きる現代文キーワード』(駿台文庫)、『錬成現代文』(尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	漢字語句の小テストを適宜実施

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
言語文化	2 時間

目 標	上代(万葉集の歌が詠まれた時代)から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める。	
	知識 技能	多様な文章から多くの言葉や表現等に接することで、語彙力を高める。古典を含めた、日本語固有の豊かな表現に触れることで、風土に根ざした言語文化への理解を深める。
	思考 判断 表現	文学的な文章を読むことで、人間の生き方や表現の美しさについて学ぶ。各単元で学んだ内容をもとに自身の考えを深め、発表する機会を持つ。
育 て た い 力	主体性 協働性 多様性	多様な文章を読むことで、自分の興味、関心を広げ、関連する作品へと読書の範囲を広げる契機とする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	【現代文】 ・「世界を見わたす窓」 <div style="text-align: right;">【古文】</div> ・「田舎の児、桜の散るを見て泣くこと」 ・「児のそら寝」 ・「絵仏師良秀」 <div style="text-align: right;">【漢文】</div> ・「漢文に親しむ」 ・「蛇足」	・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学 期	【現代文】 ・「セメント樽の中の手紙」 <div style="text-align: right;">【古文】</div> ・「土佐日記」 ・「更級日記」 ・「今昔物語(阿蘇の史)」 ・「雪のいと高う降りたるを」 <div style="text-align: right;">【漢文】</div> ・「完璧」 ・「香炉峰之下」	・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業・グループワーク
教科書	『言語文化』(大修館書店)
副教材	『学ぶぞ古文と漢文』(尚文出版)、『学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート』(尚文出版)『核心古文単語351』(尚文出版)、『新成古典』(尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	漢字語句の小テストを適宜実施

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地理総合	2 時間

目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	
	知識 技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、他者に分かりやすくまとめる技能を身に付ける。
	思考 判断 表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に他者の立場を踏まえたうえで議論したりする力を養う。
	主体性 協働性 多様性	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や産業、歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1部 地図と地理情報システム 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀と地図の違いを理解するとともに、統計地図のそれぞれの特色を理解する。 様々な分野でグローバル化が進展していくなかで、今後の日本社会のあり方について考察する。 世界の地形や気候を学習することで、それらが現地の人々の生活習慣の基盤にあることを理解するとともに、人々の生活の工夫についても考察する。
2 学期	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 第3部 持続可能な地域づくりと私たち	<ul style="list-style-type: none"> 世界の言語や宗教、歴史的背景を学習することを通して、人種や民族ごとの生活の共通点や相違点について理解する。 各地域の産業を自然環境と関連させて、それらが人々の生活にどのように根付いているか考察する。 日本の自然環境を学習することで、自然災害の脅威やそれに対する防災や減災について、多角的に考察する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ICTを活用した学習
教科書	『高等学校 新地理総合』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院)
副教材	高等学校 新地理総合ノート(帝国書院)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、発表、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	授業内容の完全理解と大学入試レベルの記述問題を解くことができる
	60%	授業中に取り上げられる重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
歴史総合	2 時間

目 標	(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意義、特色を現在とのつながりに着目し多面的・多角的に考察し、課題解決を構想する力や、それらを基に議論する力を養う。(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を追求、解決するとともに、多面的な考察を通して日本の歴史に対する理解と、他国や他国の文化を尊重することの大切さを学ぶ。	
育 っ たい 力	知識 技能	近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる力。
	思考 判断 表現	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて考察する力、構想する力、議論する力。
	主体性 協働性 多様性	歴史的課題を主体的に追究、解決しようとする態度、多面的・多角的な考察と深い理解。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	序 歴史の扉 (1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代	・現代社会の諸課題が、日本や他の国々・地域が経験してきた「近代化」「大衆化」「グローバル化」に繋がっていることを理解し、説明できるようにする。 ・中学校で学習した内容を踏まえた上で、18～19世紀における日本を含むアジアの社会と経済、工業化と世界市場の形成、立憲体制・国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容などについて理解し、説明できるようにする。
2 学 期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦 第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	・中学校で学習した内容を踏まえた上で、第一次大戦期の総力戦と戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がり、ファシズムの台頭、第二次世界大戦などについて理解し、説明できるようにする。 ・中学校で学習した内容を踏まえた上で、第二次大戦後の国際政治の動向、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会、市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題などについて理解し、説明できるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『歴史総合』(実教出版社)
副教材	歴史総合 演習ノート(実教出版社)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書の歴史的な事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学Ⅰ、数学Ⅱ	5 時間

目 標	数と式、集合と論証、図形と計量、2次関数、データの分析、方程式と証明、図形と方程式、三角関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析、方程式と証明、図形と方程式、三角関数における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。
	思考判断表現	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析、方程式と証明、図形と方程式、三角関数における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考え、表現できる。
育 たい 力	主体性 協働性 多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考え、それを発展させることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【数学Ⅰ】 ○数と式 ○集合と論証 ○2次関数 ○図形と計量 ○データの分析	○整式の加法・減法・乗法、因数分解ができる。 ○実数の分類、絶対値を理解し、根号を含む式の計算ができる。 ○不等式とその性質を理解し、不等式が解ける。 ○集合、命題と条件について理解できる。 ○2次関数とそのグラフについて理解し、最大値や最小値を求めたり、2次方程式や2次不等式に応用することができる。 ○三角比の意味やその性質について理解し、三角形や四角形、空間図形等に応用できる。 ○統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理、分析し傾向を把握する。
2 学期	【数学Ⅱ】 ○方程式と証明 ○図形と方程式 ○三角関数	○整式の乗法、除法及び分数式の計算ができる。 ○複素数について理解し、2次方程式を複素数の範囲で解ける。因数定理を使って高次方程式を解ける。 ○恒等式について理解し、等式や不等式の証明ができる。 ○座標を用いてさまざまな図形を性質を考察できる。 ○軌跡や領域について理解し、応用できる。 ○角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を導入する。単位円を利用して、三角関数の基本的な性質の理解を深め、三角関数のグラフを理解し、方程式・不等式が解ける。 ○三角関数の加法定理について理解し、活用できる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学Ⅰ Advanced』(東書 数Ⅰ 701) 『数学Ⅱ Advanced』(東書 数Ⅱ 701)
副教材	Hi-PRIME 数学Ⅰ +A(東書) チャート式基礎からの数学Ⅰ +A(数研) Hi-PRIME 数学Ⅱ +B(東書) チャート式基礎からの数学Ⅱ +B(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	課題学習を行い、ICTを活用した発表などの活動を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B、副教材「Hi-PRIME」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学A	2 時間

目 標	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。	
	知識技能	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。
	思考判断表現	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察し表現できる。また数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。
育 っ た い 力	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考察することができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○集合 ○場合の数と確率	○集合の要素の個数と順列、組合せの意味を理解し、その計算ができる。 ○事象と確率、確率の基本性質を理解し、その計算ができる。 ○独立試行、反復試行、条件付き確率を学び、具体的な事象を数学的に考察できる。
2 学期	○図形の性質 ○数学と人間の活動 ○整数の性質	○三角形の比の定理について理解し、活用できる。 ○円の性質、定理について理解し、活用できる。 ○基本的な作図、長さの作図ができる。 ○空間図形の基本性質を理解し、活用できる。 ○数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解し、考察できる。 ○数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解し、考察できる。 ○約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質を理解し、活用できる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学A Advanced』(東書 数A701)
副教材	Hi-PRIME 数学 I + A (東書) チャート式基礎からの数学 I + A(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	課題学習を行い、ICTを活用した発表などの活動を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B、副教材「Hi-PRIME」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
物理基礎	2 時間

目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	
	知識 技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、生徒自らが課題を見付け、考え、見直しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考 判断 表現	物理基礎の学習で学んだ事柄が、他の自然科学の基礎を担うとともに、日常生活や社会を支える科学技術と結び付いており、科学が大きく発達した現代社会において、環境保全に配慮しつつ安全かつ快適に生活するために欠かせないものであることを、実感をもって理解する。
	主体性 協働性 多様性	身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見出す能力と態度を育てようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	1編 物体の運動とエネルギー (様々な力、力のつり合い、運動の法則、落下運動) 第1編 物体の運動とエネルギー (仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、力学の基本的な概念や法則を理解する。 ・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。 ・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。
2 学期	第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (熱、波、エネルギーとその利用) 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (物質と電気抵抗、電気の利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎で扱う内容の完全な理解を目標とする。 ・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編 物理基礎』(東京書籍)
副教材	ニューサポート新編物理基礎(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「ニューサポート新編物理基礎」のレベルアップドリル及びプリント『物理のStairs』の理解
	60%	「ニューサポート新編物理基礎」のサポートチャレンジ及びプリント『物理のStairs』の表面の理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
生物基礎	2 時間

目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高める。目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。	
	知識技能	観察、実験を行い、基本操作ができる。それらの過程や結果を的確に記録、整理することができる。自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解することができる。
	思考判断表現	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。
	主体性協働性多様性	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする事ができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性 細胞とエネルギー 遺伝現象と遺伝子 遺伝情報とタンパク質の合成 	<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究する。 細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 体液とそのはたらき 生体防御 自律神経系とホルモン 生物多様性とバイオーム 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究する。 生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。

授業の形態	一斉授業
教科書	『高等学校生物基礎』(第一学習社)
副教材	セミナー生物基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	実験・観察を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー生物基礎」の基本問題と発展問題の理解、発展課題内容の理解
	60%	「セミナー生物基礎」の基本問題の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	2 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 器械運動(マット運動) バレーボール ダンス ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 ・ダンスは感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。
2 学期	体育理論 バドミントン バスケットボール サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
保健	1 時間

目 標	心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 現代社会と健康についての課題解決に役立つ知識を身につけ、適切な意思決定と行動選択できる力を育て健康的なライフスタイルを身につける。	
育 っ て たい 力	知識 技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
	思考 判断 表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
	主体性 協働性 多様性	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	第1章【現代社会と健康】 第1節 健康の考え方 第2節 現代の感染症とその予防 第3節 生活習慣病などの予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・死因別にみた、わが国の死亡率や患者の病気の傾向について理解できる。 ・健康を保持・増進するための環境について理解することができる。 ・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。 ・性感染症の予防について正しく理解することができる。 ・HIV感染症・エイズの治療法を正しく理解することができる。 ・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。 ・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
2 学期	第1章【現代社会と健康】 第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 第5節 精神疾患の予防と回復 第2章【安全な社会生活】 第1節安全・安心な社会づくり 第2節応急手当	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につけることができるようにする。 ・人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。 ・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動の重要性、安全に暮らすための対策を知り、意識や行動についての理解を深める。 ・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	保健体育ノート(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(課題の内容・提出状況、授業態度)、グループワークによる総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
音楽 I	2 時間

目標	音楽の幅広い活動を通して芸術的な能力を伸ばし、生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養う。	
	知識技能	基本的な発声、奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。
	思考判断表現	基本的な知識、技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。
	主体性協働性多様性	ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「校歌」、「イタリア歌曲」、「宗教音楽」 ・鑑賞(西洋音楽史/劇音楽) 「古代」、「中世」、「ルネサンス」、「バロック」 /「ミュージカル」 ・楽典 音程、和音 ・創作 和音構成音によるメロディーの作曲 様々な音を使った即興表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う姿勢や基本的な発声法を身につけ、斉唱で表現できる。 ・外国語の歌曲や宗教曲を通して、言葉と音楽の関係を理解し、西洋音楽の真髄に触れる。 ・西洋音楽史の流れを把握し、音楽の成り立ちと変遷を理解する。 ・メロディーの作曲に必要な知識を理解する。 ・身に付けた読譜、記譜能力を使って自ら創作する。 ・様々な音を使って自由に表現することができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「ドイツ歌曲」、「宗教音楽」 ・表現(器楽) 「箏」(基本奏法、六段の調べ) ・鑑賞(西洋音楽史/ポピュラー音楽) 「古典派」「ロマン派」「近・現代」/「ポピュラー」 ・創作 非和声音を含むメロディーの作曲 箏による自由な発想の作品の作曲と演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・オラトリオやカンタータなどの宗教作品における聖書と音楽について理解し、表現することができる。 ・日本伝統音楽の楽器に触れ、基本的な技能を身につける。 ・西洋音楽史の流れを踏まえ、ポピュラー音楽の変遷を理解し、興味・関心を持って鑑賞する。 ・身に付けた読譜、記譜能力を使って自ら創作する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『音楽 I Tutti+』(教育出版)
副教材	教師作成のプリント、教師作成の復習プリント
評価の方法	定期試験、実技試験、平常点(ワークシート、ノート、感想文、復習プリント等)
備考	chromebookの使用(小テスト、感想文、アンケート等)

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	表現の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教師作成の復習プリントの完全理解
	60%	教師作成のプリント、ワークシートの完全記入

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語コミュニケーション I、II	4 時間

目 標	日常的または社会的な話題について、使用される語句や文、情報量、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	
育てたい力	知識技能	1. 音声: 強勢・イントネーション・区切り 2. 句読法: コンマ・コロンのセミコロン・ダッシュ 3. 語・連語及び慣用表現: 小・中学校で学習した語に加えた400~600語程度の新語・連語・慣用表現 4. 文構造及び文法事項: 不定詞・関係代名詞・関係副詞・接続詞・助動詞・前置詞・時制及び相・仮定法
	思考判断表現	目的や場面、状況などに応じ、何を聞き取ったり読み取ったりしなければならないかを判断し、それに基づいて概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、聞いたり読んだりして得た情報を整理したり、吟味したり、既存の知識と照らし合わせて関連付けたりしながら、自分の考えをまとめたりする力
	主体性協働性多様性	1. 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 2. 外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Crossroads I Unit1	異文化理解・メディアリテラシー・海洋環境・社会貢献をテーマとした探究的学習及びコミュニケーション活動 <聞くこと>
	Unit2	高校生の海外体験談・海洋生物の講義・対話(ネット使用/プラスチックごみ/校内ボランティア活動について) <読むこと>
	Unit3	言葉や文化の違い・メディアリテラシーの記事・海についてのさかなクンの講演・難民支援活動についてのWebページ <話すこと>
	Unit4	意見交換(ネットの使用状況・海と自分との関わり・チャリティやボランティアについて) <書くこと> プレゼン発表者へのフィードバックのメモ・ネット情報に接する際の注意点をまとめたポスター・海洋環境保護についての自分の意見・チャリティイベントの宣伝チラシ
2 学期	Unit5	健康・文化交流・平和をテーマとした探究的学習及びコミュニケーション活動 <聞くこと>
	Unit6	発表(長寿の要因・カンボジアの遺跡・ホロコーストにつて)・ラジオニュース <読むこと>
	Unit7	沖縄の生活についてのルポルタージュ・アフリカと日本の文化交流の記事・ホロコーストから子どもたちを救った人物の物語・中村哲医師の活動の新聞記事 <話すこと>
	Crossroads II Unit1	意見交換(健康維持のためのライフスタイル・海外の人々との文化共有・未知の環境に生活したら感じる事・海外で支援活動をする日本人や日本の団体について) <書くこと>
		長寿の人を調べた結果をまとめたエッセイ・カンボジアの遺跡に関する情報と自分がさらに知りたいこと・ホロコースト博物館への問い合わせの手紙・海外で支援活動をする日本人や日本の団体についての新聞記事

授業の形態	一斉授業 調べ学習 ペア学習 グループ学習
教科書	Crossroads English Communication I・II (大修館書店)
副教材	WORDBOX Advanced (美誠社)
評価の方法	定期試験・パフォーマンステスト・小テスト・提出課題
備考	4技能5領域全体の習熟度を評価対象とする

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を理解し、初見英文にも十分に対応できること
	②小テスト	教科書の新出語句、WORDBOX Advancedを範囲とした小テスト
	③提出物	スライド・スピーチ動画・オリジナルスクリプトなど
	④準備	必要な物品を準備
	⑤学習態度	自律的・主体的にコミュニケーション活動に取り組む学習態度

知識・技能分野の到達目安	80%	CEFR A2
	60%	CEFR A1~A2

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
論理・表現 I	2 時間

目 標	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章、序論・本論・結論の構成に従った複数の段落の文章などを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える、または伝え合うことができる能力を養う。	
育 っ た い 力	知識技能	<話すこと> 相手の理解や賛同を得るために行うスピーチ・プレゼンテーション 自らの主張を相手の主張と対比させながら、相手や聴衆を説得しようとするディベート 相手とのやり取りを通して、課題解決を目指すディスカッション <書くこと> 要点を目的に応じた項目立てをしなから相手に分かりやすいように整理し、概念の定義や具体例などを適宜加えながら情報を詳細に伝える説明文 特定の意見や主張を掲げ相手を説得するため、説明文に自分の主張を組み入れた論証文
育 っ た い 力	思考判断表現	1. 日常的な話題や社会的な話題について、英語で聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現する力 2. 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしなから、情報や自分自身の考えなどを伝え合う力
育 っ た い 力	主体性協働性多様性	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする力

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	1st Zone Lesson1 ~ Lesson5 * それぞれのLessonを2時間で学習 3rd Zone Lesson10 ~ 15 * それぞれのLessonを3時間で学習	1st Zone * 自分のことや身近な人のことについて話したり書いたりして、適切に表現する * 適切な時制と相を用いて表現する 3rd Zone * 自分のしたいことやしていることについて話したり書いたりして、適切に表現する * パラグラフの成り立ちを理解して、つながりのある内容を表現する * 準動詞を用いて、表現の幅を広げる
2 学期	2nd Zone Lesson6 ~ Lesson9 * それぞれのLessonを1.5時間で学習 4th Zone Lesson16 ~ 20 * それぞれのLessonを2時間で学習 5th Zone Lesson21~23 * それぞれのLessonを2時間で学習	2nd Zone * 日々の生活について話したり書いたりして、適切に表現する * パラグラフの成り立ちを理解して、つながりのある内容を表現する * 助動詞などを用いて、表現の幅を広げる 4th Zone 5th Zone * 社会問題に対する説明や自分の考えについて話したり書いたりして、適切に表現する * 因果関係や具体的なデータに基づいて、論理の構成や展開に工夫して表現する * 関係詞・比較表現・仮定法を用いて、表現の幅を広げる

授業の形態	一斉授業 調べ学習 ペア学習 グループ学習
教科書	be Smart English Logic and Expression I (いいずな書店)
副教材	My English Portfolio (いいずな書店) 英文法・語法問題集 その他
評価の方法	定期試験・パフォーマンステスト・小テスト・My English Portfolioを始めとした提出課題
備考	2技能3領域を中心とした発信能力の習熟度を評価対象とする

到達目標	①定期試験 範囲内の学習内容を理解し、初見英文にも十分に対応できること
到達目標	②小テスト 新出語句及び言語材料を範囲とした小テスト
到達目標	③提出物 My English Portfolio・発表動画・オリジナルスクリプトなど
到達目標	④準備 必要な物品を準備
到達目標	⑤学習態度 複数の領域を結び付けた統合的な言語活動に自律的・主体的に取り組む学習態度

知識・技能分野の到達目安	80%	CEFR A2
知識・技能分野の到達目安	60%	CEFR A1~A2

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
家庭基礎	2 時間

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭、福祉、消費生活、衣食住に関する知識と技術を総合的に習得する。 ・学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身につける。 ・生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 	
育 っ て たい 力	知識 技能	生活を営むために必要な、衣食住、家族、保育、消費、環境などに関する知識と技術を身につける。
	思考 判断 表現	人の一生という時間の経過の中で、生活の営みに必要な人間関係、衣食住、消費などの生活活動に関わる事柄を相互に関連して理解し、自らの生活を自立的に営む実践的な態度を育てる。
	主体性 協働性 多様性	共に支えあう社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身につけ、家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・自分らしい生き方と家族 ・子どもとかかわる ・衣生活をつくる ・ホームプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族家庭の意義を理解し、家族の一員としての意識をもつ。 ・子どもの発達・保育・福祉を通して、健全な発達を支える親や社会の役割を理解する。 ・衣服の機能や着装、材料などの基礎的な知識と技術を習得する。 ・各自の家庭生活の中から課題を見つけ、課題解決をめざす学習活動を行う。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活をつくる ・住生活をつくる ・経済的に自立する ・高齢者とかかわる ・消費行動を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・住居の機能、住生活と健康、安全などに関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、消費者として責任をもって行動できるようにする。 ・高齢者を正しく認識し、介護の基礎を学ぶ。 ・現代の消費生活と環境の関わりを理解する。 ・「契約の重要性、及び消費者保護の仕組みに関する規定」について理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『家庭基礎 自立・共生・創造』(東京書籍)
副教材	家庭基礎学習ノート(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(学習状況、提出物、授業態度、作品評価等)による総合評価
備考	PC(chromebook)を使用して調べ学習等を行う

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史性、普遍性、倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い、ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に、その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「社会課題探究」	「高校生まちづくりコンテスト(玉川大学主催)」や「SDGs QUESTみらい甲子園(SDGsQUESTみらい甲子園実行委員会主催)」をはじめとしたコンテストにエントリーする企画書・プレゼンテーション作成を行うことを通して、問いの立て方、レポートの書き方、発表の仕方など探究を進めるのに必要なスキルを高める。
2 学期	「社会課題探究」	「高校生まちづくりコンテスト(玉川大学主催)」や「SDGs QUESTみらい甲子園(SDGsQUESTみらい甲子園実行委員会主催)」をはじめとしたコンテストにエントリーする企画書・プレゼンテーション作成を行うことを通して、地域課題解決の方法について考え、探究のプロセスの理解を深める。 また、探究活動発表会(12月)を通して、SDGsに関する内容の理解を深めるだけでなく、お互いの発表を評価し合うことによって、効果的なプレゼンテーションについて考えを深める。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	未定
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする